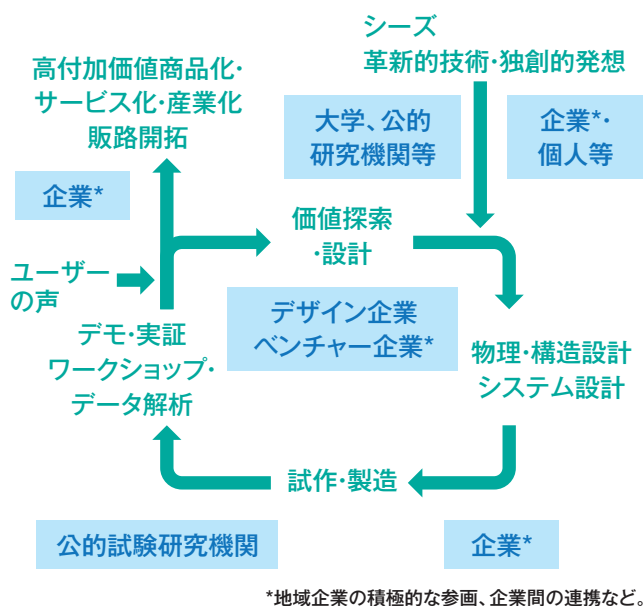
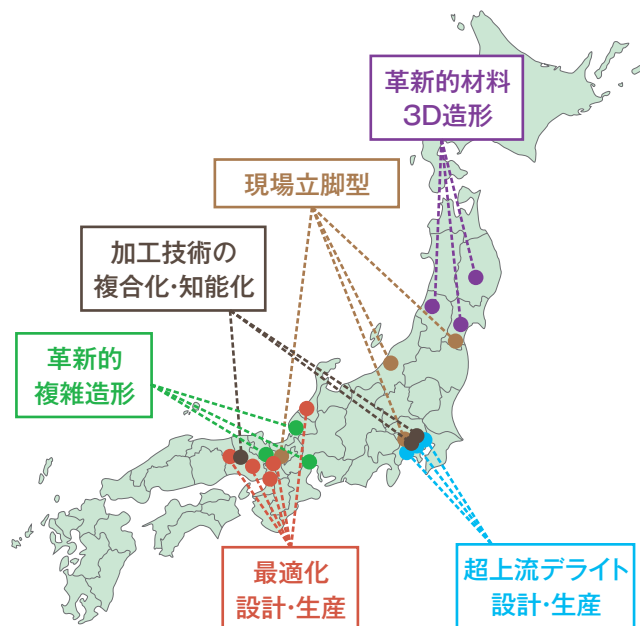




●「イノベーションスタイル」のイメージ



●研究テーマの地域俯瞰(各研究テーマ、代表実施機関所在のみ揭示)

質・低コスト・新機能を可能にする新技術・複合化技術の開発などにより、アイデアを迅速かつ容易に試作・評価できる生産・製造技術を確認し、実用化までもっていきたい」と佐々木氏はその狙いを語る。

多様なイノベーションスタイルの実証・実践

研究開発の推進でも、新たな仕組みとして「イノベーションスタイルの実証・実践」に取り組む。

「イノベーションを実現するには、ユーザー参加型の新たな仕組みが必要です。そこで、研究開発成果を実際のものづくりに適用し、成果を使用した企業や個人ユーザーの意見を得て新たな問題点を洗い出し、研究開発に迅速にフィードバックする仕組みとしてイノベーションスタイルの試行を行います。これにより、開発のブラッシュアップだけでなく、当初気付かなかった高付加価値のニーズの発掘が可能となります」と佐々木氏。

具体的には、基礎的な原理解明などに重点を置く大学、消費者や企業ユーザーとのコミュニケーションを重視する企業、地域社会を含め、広くユーザーに技術を展開する公的研究開発機関などが連携し、さまざまなイノベーションスタイルを展開していく。

プログラムの実施体制は、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)を管理法人として、すでに公募により24件の研究テーマが選ばれている。

「医療・福祉、産業製品、コンシューマー製品、エネルギーなど幅広い分野にわたって先進的なテーマを選ぶことができました。産業系から個人向け製品・サービスまでの幅広い研究開発が多く、地域の特色ある中小企業が参画するテーマも数多くあります。私たちが想定していなかった斬新なテーマもあって、大いに期待しています。

全体として、それぞれのテーマの特性とシナリオに沿って着実に推進していきます。ただ、現時点で確実な方法論があるわけではなく、このプログラムを

通してよりよい設計手法、革新的生産技術を新たに探索、提案していく研究開発が狙いです。繰り返し、仮説・試作・テスト・評価・フィードバックを最適に行うことで革新技術や新しいものづくりスタイルを確認し、5年後には当初シナリオの出口はもちろんのこと、そのものづくりスタイルを活かした新たな製品やサービスの実用化、普及に向けた取り組みにつなげたい」と佐々木氏は今後の展開について語っている。

研究開発テーマ

1. 超上流デライト設計手法の確立

ニーズ・価値・性能・デライト(喜び品質、満足等)をベースとした多様な機能設計および生産・製造条件や、各種データを考慮し高品質な全体システム設計を可能とする超上流デライト設計手法の研究開発。

2. 革新的生産・製造技術の研究開発

従来にない新しい構造や複雑形状、機能の発現、高品質・低コストを可能とする革新的生産・製造技術の研究開発。

出口戦略

✓ 地域企業の好事例を展開、新産業を創生

地域企業による事業化の好事例を他の地域や製品分野へ展開・普及させ、迅速に新産業を創生する。

✓ 企業・大学・公的機関を結ぶ「ものづくり連携システム」の構築

開発した技術を先行実装可能な企業・大学・公的研究開発機関等に結びつけるものづくり連携システムを構築する。

✓ 公的研究開発機関への導入など成果普及活動の強化

東京オリンピック・パラリンピックに向けて特徴ある商品化を図り、ものづくり技術をPR。
公的研究開発機関への導入などを通じて、研究開発成果の普及活動を強化・推進する。

発想を素早く形にして、評価・フィードバックすることで、
新たなものづくりスタイルを創造します。

グローバルトップを獲得できる
新たな市場の創出を目指す

